



# 志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和5年度8・9月号

令和5年8月29日(火)

志木市立志木第二中学校

志木市館 1-3-1

TEL:048-473-2379

## 暑さに負けない二中生たちの輝き その2

校長 三杉 紀文

日中の気温の高さは相変わらずですが、日が沈むのが少し早くなり、朝晩は少しだけ気温が下がってくれているような気がします。

さて、夏季休業日を挟んで2か月が経ちますが、前号でお伝えしきれなかった6月の朝霞地区学校総合体育大会についてです。3年ぶりに観戦や応援の制限が解除された大会となり、3年間で初めて観戦に来ることができた保護者の方がいたり、大きな声を出しての応援（特にバドミントン部の「Let's go 志木二！」の声援が印象的でした）が行われたりしました。そんな中、私が見て回った範囲の中だけでも、勝敗を超えてグッとくる場面がいくつもありました。

卓球部女子では、これに勝てば県大会に出場できる団体戦の準々決勝。5本の試合のうち4試合を終えて2対2でした。残る1戦も競りに競って、お互いに2セットずつ取り合い、最後の第5セット。これを取った方がチームとして勝利し、県大会に出場できるとあって、両チームの全選手が見守る中で、相当なプレッシャーがかかったはずですが。卓球は11点取った方がセットを取れるのですが、途中6-9と相手にリードされます。相手はあと2点で勝利。ミスできないプレッシャーと相手有利の展開にあきらめの気持ちも起こり得る場面で、でも守りに入ってしまうことなく、攻めの姿勢を続け、ついに10対10のデュース（以降、2点差リードした者が勝利）に持ち込みます。心臓が飛び出しそうな緊迫の場面で、それでも最後まで攻めの姿勢を貫き、最後は13-11で劇的勝利。その瞬間、本校生徒の歓喜の輪ができていました。あれだけ苦しい場面が続いた中で、あきらめることなく、またミスを怖がって攻撃しなくなってしまうこともなく、最後まで攻めの姿勢を貫いたこと、自分に負けなかったことに、心の強さとその成長を大いに感じました。

また、サッカー部は、相手の猛攻を受け、自陣を守る時間が長く続きましたが、ゴールキーパーをはじめとして必死の守備で防ぎます。その後、連続失点を許しますが、すごいなと思ったのはその後です。生徒たちの中で「できることをやろう」「1点取ろう」と前向きな声が掛かります。ハーフタイム中も、生徒たちがお互いに修正点などについて声を掛け合い、常に前を向いて挑戦しようとする姿勢が貫かれていました。試合終了後、悔しさに思わず涙する生徒も複数いましたが、生徒自身からチームの仲間に掛けられた「前を向いて帰ろう」という言葉がとても印象的でした。

いつの間にこんなに力をつけたのだろうと思うほど、生徒たちは日々成長しています。生徒たちと生徒に関わる全ての人たちに感謝します。